

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：34316

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652165

研究課題名(和文)「混一疆理歴代国都之図」の歴史的解析 中国・北東アジア地域を中心として

研究課題名(英文)Historic analysis of Map of Integrated Lands and Regions of Historical Countries and Capitals, Around China and a northeast Asian region

研究代表者

渡邊 久(Watanabe, Hisashi)

龍谷大学・文学部・准教授

研究者番号：70319507

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：これまで模写図で研究されてきた龍谷大学所蔵の『混一疆理歴代国都之図』に関して、研究代表者および研究分担者は、デジタル復元図に基づき個別研究を進め、研究集会を経て2012年12月に龍谷大学で本図に関する国際シンポジウムを開催し、シンポジウムでの報告を中心に研究成果を報告書としてまとめた。いずれも、『混一図』研究の新しい方向性を示すものとして評価されよう。また、岡田は、デジタル復元の技術で本図の復元図を完成させ、これもミュージアムで初公開した。さらに、龍谷大学図書館のホームページにデジタル復元図を公開したことによって、誰でもがアクセスして本図を見ることができるようになった。

研究成果の概要(英文)：About Map of Integrated Lands and Regions of Historical Countries and Capitals of the Ryukoku University possession that has been studied in a figure of copying so far, we held the international symposium about the original drawing after an individual study and study meeting based on a digital diagram of a restored building in Ryukoku University in December, 2012. And mainly on the report at this symposium, we settled results of research as a report. Both studies will be evaluated as a thing indicating the new directionality of the study of the original drawing.

In addition, Okada completed the diagram of a restored building of the original drawing in a technique of the digital reconstruction. We exhibited this to the public first in Ryukoku museum. Furthermore, I accessed it in anyone, and the homepage of the Ryukoku University library came to be able to watch this map by having shown a digital diagram of a restored building.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：混一疆理歴代国都之図 デジタル復元 モンゴル 女真

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究分担者・岡田至弘は、龍谷大学「古典籍デジタルアーカイブ研究センター」のセンター長を務め、1980年代以降、大英図書館が主催する国際敦煌プロジェクトに、日本で唯一の研究機関として参加し、同文書のデジタル化に取り組んできた。同センターの研究成果として、デジタルアーカイブの方法に基づき、古地図に記された劣化した地名や地形の鮮明化が可能とされた。さらに原地図の素材分析により、原型を可能な限り忠実に復元し、新たな研究資料として検討することが可能となった。本研究はこれらの研究成果を生かすべく実施されるものである。

(2) 龍谷大学所蔵の『混一疆理歴代国都之図』(以下、『混一図』と略す)は、1402年に李氏朝鮮において作製されたもので、現存する最古の世界地図の一つであり、モンゴル帝国時代の世界が描かれている。古くから各方面で注目されてきたが、原図に記されている地名等の情報に関しては、劣化により判読出来ないものが多かった。しかし、上記の成果に基づく地名の鮮明化や色素・素材分析などによる復元方法が開発され、その結果、作製時代の原型が忠実に復元されたことにより、原図の文字の解読が可能となった。

2. 研究の目的

(1) 従来、同地図は模写図に基づく地名比定が中心に行われ、モンゴル帝国時代の世界の諸相を検討するとは言うものの、結局は比較の見やすい、あるいは情報量の少ないイスラーム世界からアフリカ地域の解析が中心であった。しかし、本研究は、デジタル工学によって劣化した古地図の復元を基本とし、そこに記載された地名を読み取り、使用された顔料分析により本来の色彩を導き出すことによって、この地図が示す基本的な特徴を解析する。

(2) 特に、地図の中心を占め、膨大な情報

が網羅されているにもかかわらず、これまで、文字が不鮮明であるということから、研究対象にならなかった中国本土と東アジア海域、さらに、未解明な地名・情報が多い北東アジア地域の歴史的な解析をめざす。

3. 研究の方法

(1) 本研究計画は、研究目的を達するために、次のように研究を分担する。岡田は、これまでの成果をもとに、引き続き『混一図』のデジタル復元に務め、さらなる鮮明化を目指す。特に地図の中国本土・北東アジア地域と海域の鮮明化を集中的に行なう。

(2) そして、濱下・中村・村岡・渡邊らは、地図上の担当する地域の地理情報を復元、解読し、それらの地域に見られる政治的・経済(商業)的・宗教文化的関係を解析する。担当地域は、濱下は、東アジア海域および琉球をはじめとする島嶼地域、中村は、北東アジア地域とくにアムール川下流ならびにサハリン地域、村岡は、北中国およびモンゴル地域、渡邊は、主に南中国を中心に中国全域を担当するが、中国本土の情報は膨大な量であり、困難が予想される。そこで、森田が連携研究者として参加し、その解析に協力する。通常は、各人が個別に研究するが、それぞれの成果を年に3回の研究集会で報告し、共同性を高める。

(3) また、モンゴル・中国・韓国の各研究機関に所蔵される『混一図』に関連する古地図の実地調査も行ない、現地の研究者との意見も交換を行ない、多くの地図を相互に比較検討することにより地名解読の精度を高め、関連する文献資料も収集し、それらによってより深い解析が可能となるはずである。

4. 研究成果

(1) 研究方法で述べたように、研究代表者・分担者各人の専門とする地域、地図上の

担当する地域の地理情報を復元、解読し、それらの地域に見られる政治的・経済（商業）的・宗教文化的関係を解析することに努めた。他機関への調査としては、日本では名古屋市徳川美術館逢左文庫や京都市東福寺へ中国古地図の調査に赴いた。海外では、中国洛陽市の各研究機関、北京市中国社会科学院、台湾の故宫博物院や国家図書館において、本図に関連する古地図の調査を行い、関連する文献資料も収集し、現地の研究者との意見交換を行った。それらの文献や地図を相互に比較検討し、本図の地名解読に精度を高め、深い解析をする基礎を整えた。

（２）岡田は、韓国国際文化フォーラムで『混一図』はじめ、東アジア資料のデジタル化について講演し、濱下も韓国ソウルで、『混一図』に関連する講演を行なっている。『混一図』は、もともと 1402 年に李氏朝鮮で作製されたものであって、韓国の研究者たちや一般の間でも、その関心の高さが窺える。日本でもこの図に対する一般の関心は高く、村岡は、大阪毎日文化センターや神戸新聞文化センターの一般向けの講座で、『混一図』に関する講演をし、研究成果を一般に還元した。

（３）そのほか、研究成果は、各人が個別論文として発表したのと併せ、2012 年 12 月には、当初の計画通り、龍谷大学で国際シンポジウムを開催し、研究分担者は各人の研究成果を発表した。また、韓国梨花女子大学の趙志衡氏を招いて講演をしていただき、代表者の渡邊の総合司会を努め、シンポジウムを統括した。シンポジウムには、韓国からも研究者が多く訪れたが、シンポジウムは研究者だけでなく、広く一般の人々も対象としたので、多くの聴衆が集まった。また、それに併せて龍谷ミュージアムで『混一図』の原図を公開し、併せて濱下、岡田、村岡が、閲覧に訪れた参観者を対象とした説明会を開いて好評

を博した。また、岡田は、デジタル復元の技術で本図の復元図を完成させ、これもミュージアムで初公開した。

（４）2013 年度は、主に 2012 年 12 月に龍谷大学で開催した国際シンポジウムの報告内容を各人がまとめることを最大の目的としたため、各人には補助金を分配せず、今年度の費用は全て報告書作成に使用することにした。報告書で濱下は、海洋から見た『混一図』の歴史的特徴を明らかにし、研究協力者の趙志衡は、『混一図』に描かれているアフリカを他の古地図と対比し、その特徴を多方面にわたって指摘した。岡田は、『混一図』のデジタル保存・修復について提言し、『混一図』の複製制作の過程を示し、その意義と今後の課題を述べた。中村は、『混一図』に見える中国東北地方の記述から、その地域に居住する女真人の活動の様相を明らかにした。村岡は、『混一図』に記されるモンゴル高原地域の諸都市から、モンゴルと商業ネットワークの関係の重要性を指摘した。渡邊は、『混一図』の彩色地名について、新見解を述べている。いずれも、『混一図』研究の新しい方向性を示すものとして評価されよう。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 9 件）

濱下武志、海洋から見た『混一疆理歴代国都之図』の歴史的特徴、本科研報告書、査読無、2014、1 - 17

趙志衡、『混一疆理歴代国都之図』におけるアフリカ：比較史的検討、本科研報告書、査読無、2014、18 - 33

岡田至弘、『混一疆理歴代国都之図』のデジタル保存・修復および複製制作、本科研報告書、査読無、2014、34 - 40

中村和之、『混一疆理歴代国都之図』にみえる女真の活動について、本科研報告書、査読無、2014、41 - 50

村岡倫、『混一疆理歴代国都之図』にみえるモンゴル高原の諸都市、本科研報告書、査読無、2014、51 - 62

渡邊久、龍谷大学所蔵『混一疆理歴代国都之図』の彩色地名について、本科研報告書、査読無、2014、63 - 139

Takeshi Hamashita, American Academic Policy on Asian Studies during the Cold War: A Geo-Academic Map of China studies in Cross-Pacific Regions', ACTA ASIATICA, 査読無, No.104,2012, 57-86

中村和之、北・東北アジアの先住民族と環オホーツク海・環日本海交流圏、北・東北アジア地域交流史、有斐閣、査読無、2012、23 - 47

中村和之、元・明代の史料にみえるアイヌとアイヌ文化、新しいアイヌ史の構築 先史編・古代編・中世編、査読無、2012、138 - 145

〔学会発表〕(計 12 件)

岡田至弘、東アジア資料デジタル化、朝日国際文化フォーラム(招待講演)、2013.4.6、駐日韓国大使館韓国文化院
Takeshi Hamashita, Trade Networks Ryukyu Merchants between East Asia and Southeast Asia seen from Lidai Baoan 歴代宝案: 14 - 16C, ソウル大学歴史学会(招待講演)、2013.3.20、ソウル大学
Kazuyuki Nakamura, The Jurchens in the Mongol Period, Medieval archaeology of the Russian Far East: its problems and historical and cultural heritage preservation, Institute of History, 2013.9.20, Archaeology and Ethnology of Peoples of the Far East(Vladivostok)

濱下武志、グローバルに中国をどう認識するか、日韓歴史家会議(招待講演)、2012.10.27、ホテルアジア会館

濱下武志、海洋から見た『混一疆理歴代国都之図』の歴史的意義、国際シンポジウム『混一疆理歴代国都之図』とその周辺、2012.12.8、龍谷大学

趙志衡、『混一疆理歴代国都之図』のアフリカ: 比較史的検討、同上シンポジウム
村岡倫、『混一疆理歴代国都之図』にみえるモンゴル高原の諸都市、同上シンポジウム

中村和之、『混一疆理歴代国都之図』にみえる女真の活動、同上シンポジウム

岡田至弘、閲覧性を考慮した『混一疆理歴代国都之図』のデジタル保存・修復、同上シンポジウム

Yoshihiro Okada, Digital Conservation for the Kangnido an Old World Map, The Congress of the Asia Association of World Historians(招待講演), 2012.4.28, Seoul, Korea

岡田至弘、記念講演: 超高精細画像処理による混一疆理歴代国都之図の科学分析、混一疆理歴代国都之図製作 610 周年記念学術大会(招待講演)、2012.4.30、韓国国立中央博物館

村岡倫、龍谷大学所蔵『混一疆理歴代国

都之図』から見るユーラシア世界、京都高等学校社会科学研究会 2011 年度春季総会・研究大会(招待講演)、2011.6.25、龍谷大学

〔図書〕(計 1 件)

中村和之・高橋直樹、涌元古銭と新発見のベトナム銭「開泰元寶」、キャンパス・コンソーシアム函館、2014、51

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡邊 久(WATANABE, Hisashi)
龍谷大学文学部准教授
研究者番号: 70319507

(2) 研究分担者

濱下 武志(HAMASHITA, Takeshi)
龍谷大学仏教文化研究所研究員
研究者番号: 90126368

(3) 研究分担者

岡田 至弘(OKADA, Yoshihiro)
龍谷大学理工学部教授
研究者番号: 30127063

(4) 研究分担者

村岡 倫(MURAOKA, Hitoshi)
龍谷大学文学部教授
研究者番号: 30288633

(5) 連携研究者

森田 憲司(MORITA, Kenji)
奈良大学文学部教授
研究者番号: 20131609